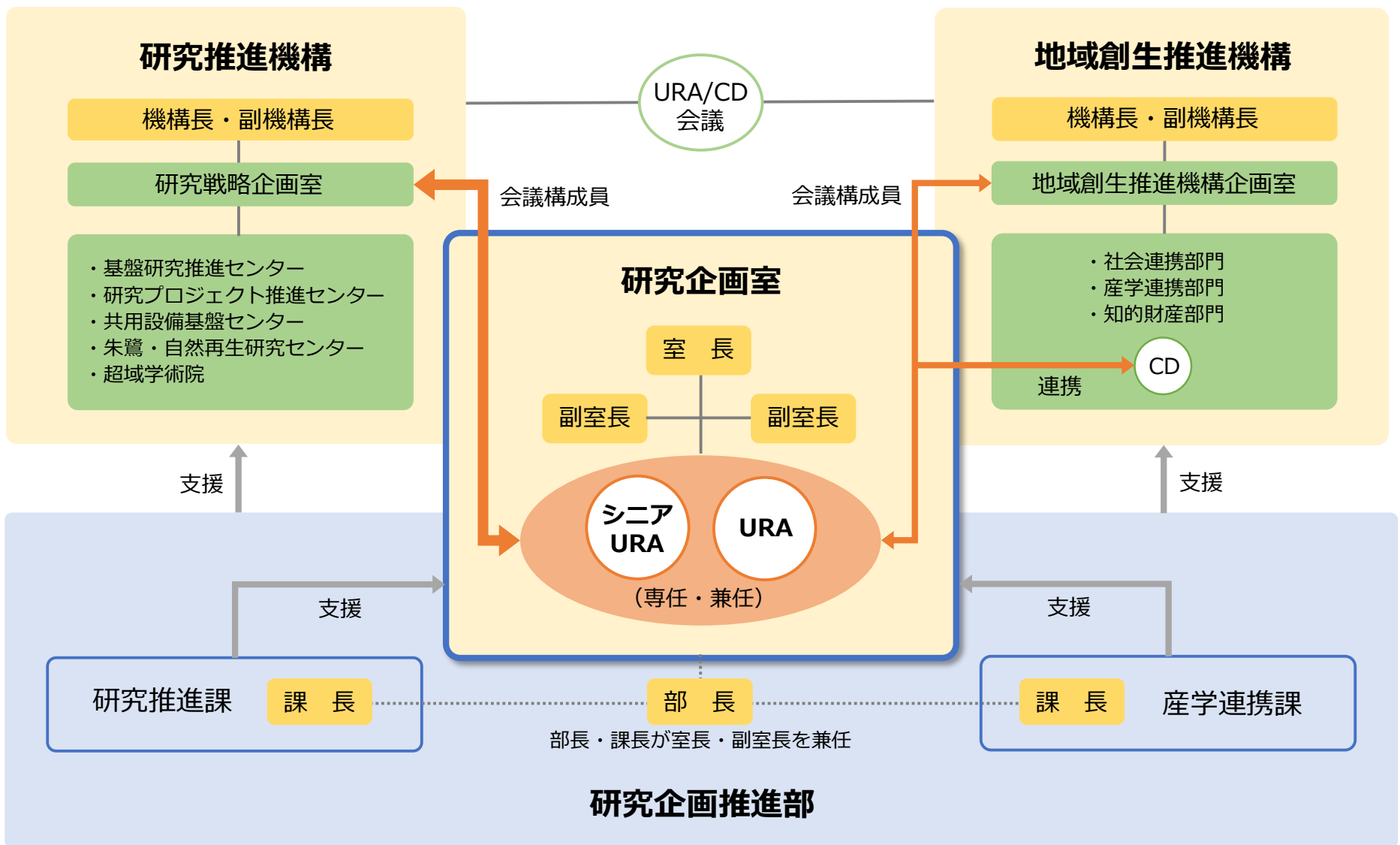


リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備 (リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)

1. 平成26年度事業進捗状況評価結果への対応
2. URAシステム整備による成果及び効果
3. URAシステム整備による想定を超えた成果及び効果

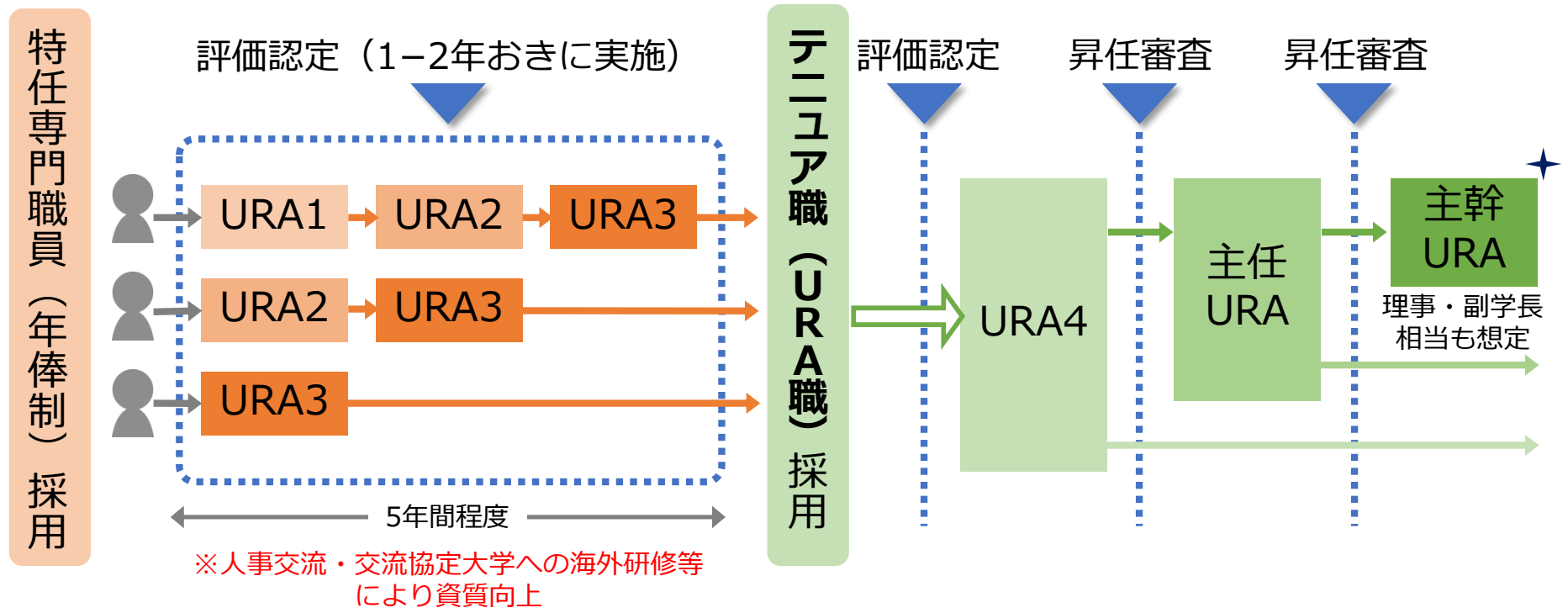
1. 平成26年度事業進捗状況評価結果への対応

1) URA組織体制



1. 平成26年度事業進捗状況評価結果への対応

2) 魅力ある処遇・魅力あるキャリアパスの提示



《各認定・審査基準の要点》

URA1	基礎的業務の理解	主任 URA	リーダーとしての高い能力
URA2	小規模プロジェクトでの自立した支援	主任 URA	リーダーとしての高い能力
URA3	大規模プロジェクトでの企画力・提案力	主幹 URA	高度なマネジメント能力
URA4	大規模プロジェクトでの企画力・提案力・リーダーシップ	主幹 URA	高度なマネジメント能力

1. 平成26年度事業進捗状況評価結果への対応

3) 優れたURA人材の確保

[専任7名] 2017年10月1日現在、50音順

- ◆ 研究機関や企業で、国内外で、様々な経験を持つ多彩な人材構成
- ◆ 能力を活かした主な担当業務を持ちながら、案件に応じ自在にチームを組んで対応



シニアURA 進藤 典男 民間企業

- ・ソニーで技術戦略立案等に従事後早期退職
- ・2010年技術経営修士(MOT)

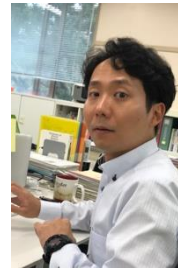
企業連携



URA 阿部 貴子 生物系

- ・神経成長円錐の研究で博士号取得
- ・8年間の米国留学、工学部での研究等

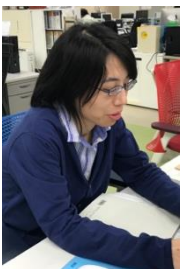
国際共同研究



URA 飯島 想 生物系

- ・生物的環境浄化に関する研究で博士号取得
- ・JICA専門家としてベトナム駐在等

国際共同研究



URA 久間木 寧子 生物系

- ・微生物の酵素研究で博士号取得
- ・NITEでのポスドクを経て本職へ

研究IR



URA 長谷川 佐知子 民間企業

- ・住友商事で10年間化学品貿易業務に従事
- ・英国留学、新大での産学官連携等を経てURAに

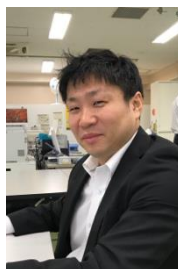
異分野連携



URA 平井 克之 生物系 民間企業

- ・植物ウイルスの発病機構で博士号取得
- ・日本郵便(株)総合職として、人事やコンプライアンス等の企画部門に従事

研究IR



URA 松鷹 宏 工学系

- ・CNTを用いた生体分子計測の研究で修士号取得
- ・理研発ベンチャー企業で材料開発に従事

情報発信

[兼任6名] シニア：教員（3）・事務（1）・CD（1）、URA：事務（1）

2. URAシステム整備による成果及び効果

1) -1 科研費関連

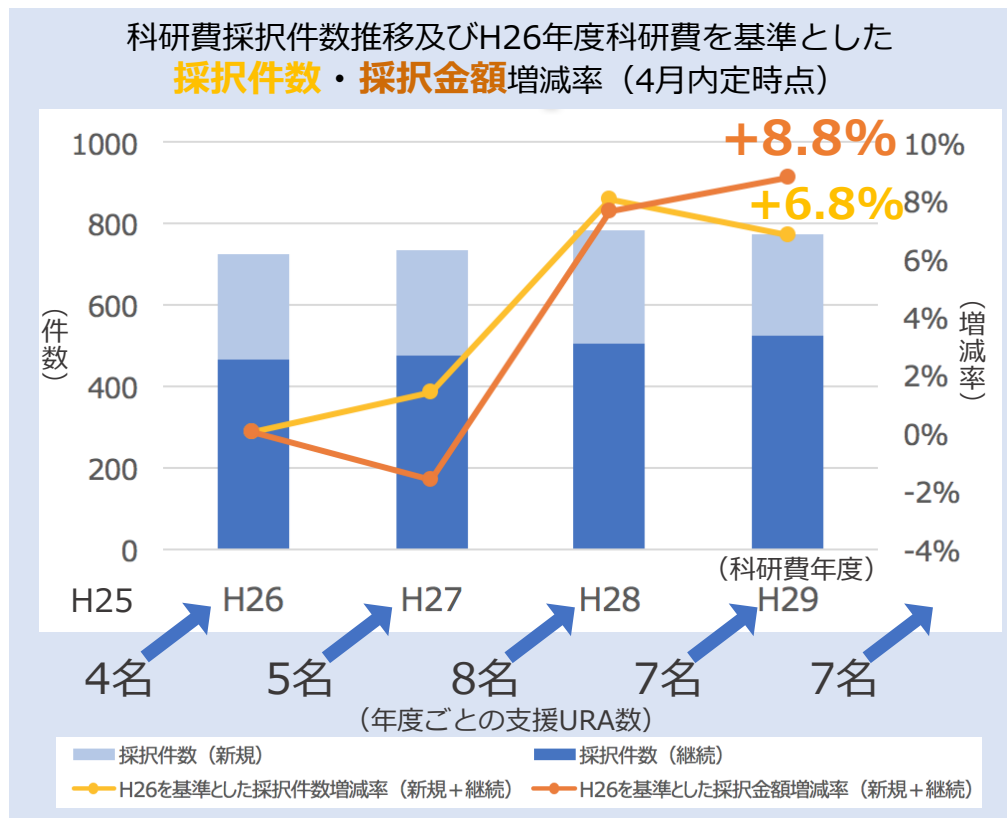
課題1

採択数は増えているが
採択金額が伸び悩んでいる



URA支援により
採択金額が順調に増加

H26年度と
比較すると **+8.8%**



著しい伸びを見せる種目 【新規+継続 件数】

- **基盤研究(B)** [2000万円以下/2~4年間]

H26年度**67**件 → H27年度69件 → H28年度74件 → H29年度**88**件

H26年度と
比較すると **+1.3倍**

- **若手研究(A)** [500-3000万円以下/2~4年間, 39歳以下]

H26年度**4**件 → H27年度5件 → H28年度10件 → H29年度**13**件

H26年度と
比較すると **+3.3倍**

2. URAシステム整備による成果及び効果

1) -2 科研費関連

課題2

分野の特性や部局の事情を踏まえた
戦略的な科研費対策が必須



URAが中心となり
分析と提言

①新潟大学における科研費獲得の総合行動計画 (H29.3.10大学研究委員会決定)

URAが部局別目標値
6項目を設定

申請率	✓新規	採択率	✓新規	基盤B以上の 課題割合	✓新規
	✓新規+継続	課題保有率	✓新規+継続		✓新規+継続

②柔軟性の高い分析ツールを 独自開発 (右図)

1. データ分析の生産性向上
2. 戦略提言の品質を高める

③部局長との個別打合せ (コンサルティング)

1. 所属研究者個人別の状況
2. 研究分野別のベンチマーク分析

訪問した部局数 **13部局**

KAKENデータベースから
研究課題約10万件を取得



→ .xml

ウェブアプリを構築

集計項目

- ✓ 研究種目
- ✓ 研究分野
- ✓ 研究機関
- ✓ 金額

使用例:

①研究分野と機関を選択



②自動集計でグラフ表示



2) 科研費以外の外部資金（URA支援による主な採択実績）

[2017年10月現在]

H25年度

文部科学省「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業」
文部科学賞「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」

H26年度

文部科学省「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」
内閣府「戦略的イノベーション創出プログラム（SIP）」

H27年度

AMED「感染症研究国際展開戦略プログラム（J-GRID）」
AMED「革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST）」
文部科学省「大学の世界展開力強化事業（トルコ）」
文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）」

H28年度

農林水産省「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」
文部科学省「大学の世界展開力強化事業（ASEAN地域）」
農林水産省「農林水産政策科学研究委託事業」
AMED 革新的先端研究開発支援事業（PRIME）

H29年度

文部科学省「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」

URAが

- ・情報収集
- ・チーム作り
- ・申請書作成
- ・学内外調整^{など}
包括的に支援

上記事業の総額*：直接経費約**24億円**+間接経費約**4億円**

*採択時の事業期間総額

2. URAシステム整備による成果及び効果

3) U-go (ユーゴー) プログラムの企画・運営 (H28年度～)

異分野連携・融合研究を支援し幅広い研究分野を活性化

新たな学問領域の創出・外部資金獲得へ

3つの取組み + α

U-go Grant H28年度 (応募30件) H29年度 (応募26件)
最大100万円の研究費を助成 **10課題採択** **13課題採択**

U-go Salon 第1回 (2016年12月) 第2回 (2017年6月)
半期に一度の研究者大交流会 **各回約100名参加**

U-go Web サロンでのポスターなどこれまで
ウェブ上のU-go Salon **研究情報47件掲載**

マッチング支援
コラボ分野
お相手探し
これまでに
33名を支援



“関係ないと思っていた**異分野の話がとても有意義**”
“早速お互いのラボを訪問し**共同研究**の話を進めています”
“出会った研究者と**U-go Grant**に応募しました！”
(U-go Salon参加者より)



第3回U-go Salon(2017年12月開催) より
高等教育コンソーシアムにいがた加盟校26機関をはじめ
対象を他大学・企業等に拡大
新潟地域全体の研究交流の場へ

4) AI関連研究促進ワーキンググループ・形成支援

2016年7月

近年のICTの急激な進化、産業構造・技術分野の急速な変化に対応するため、研究推進機構の主導のもと**高度ICT研究の推進を志向したワーキンググループ(WG)**を設置

WG立上げ支援

2016年8-9月

学内研究者によるWGを実施 (3回)

WG運営支援

2016年12月

「新潟大学AI関連研究の促進を検討するWG一提言とりまとめ」発表

U
R
A

2017年4月

WG活動を基盤とした**ビッグデータアクティベーション研究センター(BDA)**を研究推進機構附置のコアセンターとして創設

センター立上げ支援



- ・センター長：山崎達也教授 (自然科学系)
- ・メンバー：26名 (2017年6月現在)

BDAキックオフシンポジウム (2017年7月21日)



外部資金申請支援等

3. URAシステム整備による想定を超えた成果及び効果

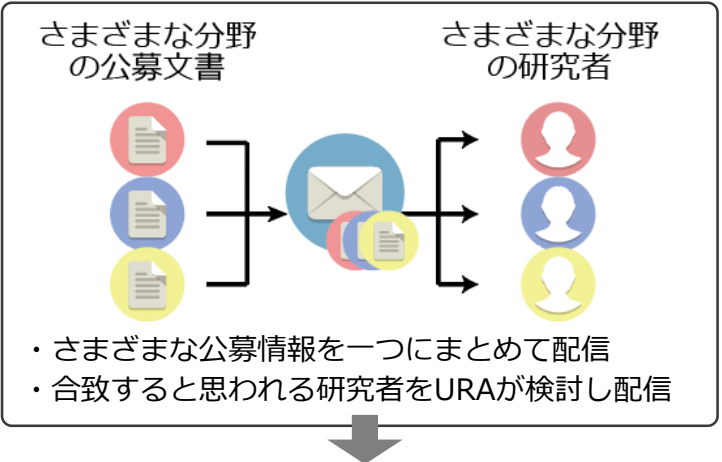
1) 研究資金公募情報リコメンドシステムの開発

リコメンドシステム = 学内研究者に対するより有用な研究資金公募情報のメール配信

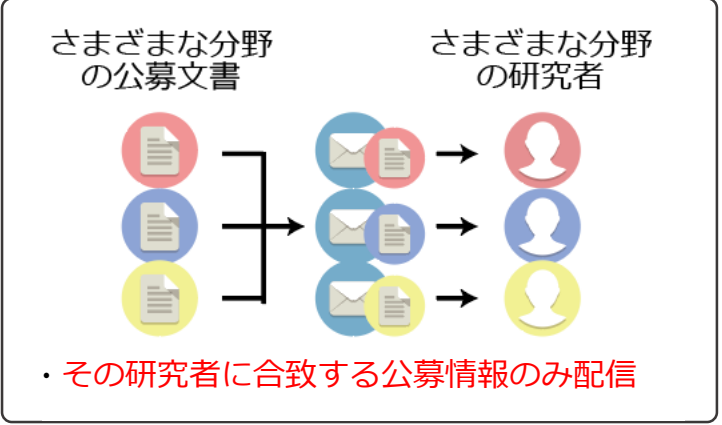
メリット

- URA : 公募情報のお知らせ業務の効率化
- 研究者 : **自分が関心のある研究分野の公募情報だけ届く**

一般的な公募情報提供の取組み



リコメンドシステムで目指すもの



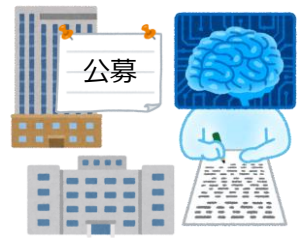
システム概要

準備：研究者情報の取得



- ✓ 科研費データベースなどから情報取得
- ✓ 研究課題ごとに、**自然言語処理技術**によりベクトル化

①公募に合致する研究者のリコメンド



- ✓ URAが公募要領から**研究テーマを抽出**
- ✓ システムがリコメンド**研究者リスト**を出力
- ✓ 該当する研究者に公募情報を自動的に**メール配信** ※H30年度実用化時

②URAによる評価



- ✓ 研究テーマと合致しているかどうか、**有志のURA*の協力**により継続的に評価中

*有志のURAの所属機関 (10大学)

筑波、東京工業、横浜国立、富山、京都、広島、徳島、熊本、横浜市立、名古屋市立

3. URAシステム整備による想定を超えた成果及び効果

2) RETOP~研究支援トータルパッケージ~ 平成30年4月~開始予定

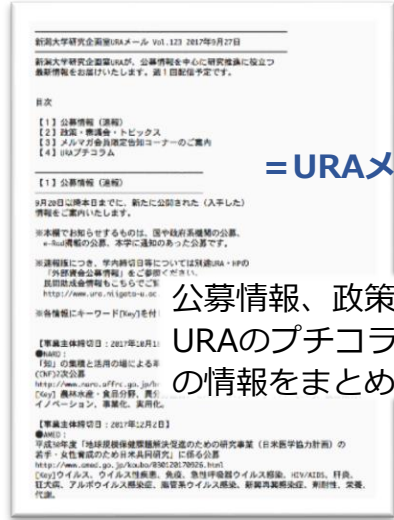


新潟大学URAが行っている様々な**研究支援や研究分析、研究資金情報の収集**の取組を主に県内の私立大学に**有償で開放・提供**するサービス

REsearch Support TOtal Package

パッケージメニュー

- ① 科研費説明会等の**学内限定説明会**への参加
- ② **カスタマイズ**科研費説明会への講師（URA）の派遣
- ③ URAホームページの**学内限定ページ**の閲覧
- ④ 各種**外部資金公募情報**の提供（URAメルマガ、公募説明会資料）
- ⑤ 各大学の研究力分析**コンサルティング**（年1回）
- ⑥ **関係審議会**の情報共有、研究不正・遺伝資源等の**各種ガイドライン**説明会の情報共有
- ⑦ **科研費採択状況分析ツール**の利用【オプション】



= URAメルマガ =

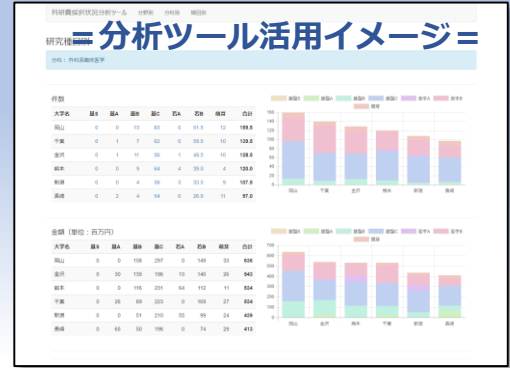
公募情報、政策審議会情報、URAのプチコラムなど1週間分の情報をまとめて配信

3. URAシステム整備による想定を超えた成果及び効果

利用大学の メリット

主に県内私立大学

- ◆ 研究支援のノウハウや人材不足を補完し、業務の**負担軽減・効率化**を実現
- ◆ 国のガイドライン等への**速やかな対応**が可能に
- ◆ 外部資金情報や審議会情報を**タイムリー**に入手
- ◆ 定期的に一定程度の**研究力分析**が得られる
- ◆ **初級URAのOJT**の効果が得られる



新潟大学の メリット

学内研究者へのサービスを低下させずに複数の効果

- ◆ **研究者シーズ**を幅広く収集 → 新たな**共同研究**、**大型外部資金申請**での協力、質の高い**研究プロジェクト**の設置へ
- ◆ URAの活動を通じた**研究広報効果**
- ◆ **地域貢献大学**としての役割の明確化 (地域の私立大学支援)
- ◆ **URAシステムの普及**
- ◆ 外部資金獲得の1ツールとして、収益を活用した学内研究環境の充実



すでに
県内2大学と意見交換
賛同を得ている

来年度の開始に向けコンソ加盟校
を中心に訪問予定

高等教育コンソーシアムにいがた
The Consortium of Higher Education in Niigata

加盟校一覧

- 敬和学園大学
- 上越教育大学
- 長岡技術科学大学
- 長岡造形大学
- 長岡大学
- 新潟医療福祉大学
- 新潟経営大学
- 新潟県立看護大学
- 新潟県立大学
- 新潟工科大学
- 新潟国際情報大学
- 新潟産業大学
- 新潟青陵大学
- 新潟大学
- 新潟薬科大学
- 新潟リハビリテーション大学
- 新潟工業短期大学
- 新潟青陵大学短期大学部
- 新潟中央短期大学
- 日本歯科大学新潟短期大学
- 明倫短期大学
- 国際大学
- 事業創造大学院大学
- 長岡工業高等専門学校
- 放送大学